

〔観葉植物の用土改善に関する試験〕
 数種土壌改良資材および肥料の効果（まとめ）

星 秀男・川村眞次*・村上昌弘*²

（八丈島園芸技術センター）*現江戸川分場・*²現経営部

【要 約】観葉植物の用土改善のため、数種の土壌改良資材および肥料の生育等への効果を検討した。その結果、資材では、ロベチップ、活性炭の効果が高く、赤土単用に比べ、樹種にもよるが良好な生育を示した。肥料では、供試したいずれも慣行と比べ生育は劣った。

【目 的】

八丈島における観葉鉢物類の生産では、生産者により使用する用土や施肥方法が異なり、適正な用土に関する考えも統一されていない。そこで、観葉鉢物の生育と土壌改良資材および肥料の施用効果を明らかにし、高品質な観葉鉢物類を生産するための資料とする。

【方 法】

1) 観葉植物の生育における土壌改良資材の効果

供試植物：オガスタ、ケンチャシ、フェニックス・ロベレニ、テプルヤシおよびチャマイトレ・セリジの5樹種。

供試資材：ロベチップ堆肥、ピートス、活性炭、ヤシガラチップの4種類。

試験概要：8号プラ鉢を使用。用土は赤土を用い、各資材の混入比は容積比で30%。

2) 肥料の種類が観葉植物の生育に及ぼす影響

供試植物：オガスタ、テプルヤシおよびチャマイトレ・セリジの3樹種。

供試肥料：燐過安42号、燐過苦土安1号、IB燐過安555、有機配合特6号の4種類、対照としてIB化成S1号および油粕を供試した。

試験概要：2002年8月26日鉢上げ。各肥料の施用は、02年9月4日、11月5日、03年1月29日、4月8日、7月24日、9月1日、1回の施用量は、1鉢あたり有機配合特6号は50g、その他は25g。対照区はIB化成S1号と油粕を交互に施用。

【成果の概要】

- 1) 土壌改良資材の施用と生育：①鉢上げ後ほぼ100日まではロベチップ施用により、ケンチャシ、フェニックス・ロベレニ、テプルヤシで赤土単用より生育が良好であった。活性炭、ヤシガラチップでは生育が劣った。②鉢上げ1年後までは、ケンチャシ、フェニックス・ロベレニの生育がロベチップで良好であった。初期生育が劣った活性炭は、この時期から良好な生育を示した。③鉢上げから約2年間の生育では、オガスタ、フェニックス・ロベレニ、テプルヤシ、チャマイトレ・セリジは、ロベチップ、ピートス、活性炭で、同～やや良であった。ケンチャシでは改良資材の効果が高かった。④ロベチップ施用は、鉢株重が赤土単用より約0.7～1kg軽減された（図1）。
- 2) 肥料の種類と生育：供試したいずれの肥料も、生育は慣行と比較して劣った。各種類における肥料の成分・形態と生育の間には、一定の傾向が見られなかった（表2）。
- 3) まとめ：土壌改良資材の生育への効果は大きく、樹種と資材の組み合わせによっては、生育がきわめて良好であった。また、ロベチップで明らかになった鉢株重の軽量化については、作業労力の軽減に大きく寄与するものであり、生育が同等であっても改良資材を利用するメリットは大きい。肥料の種類と生育については明らかにできなかった。

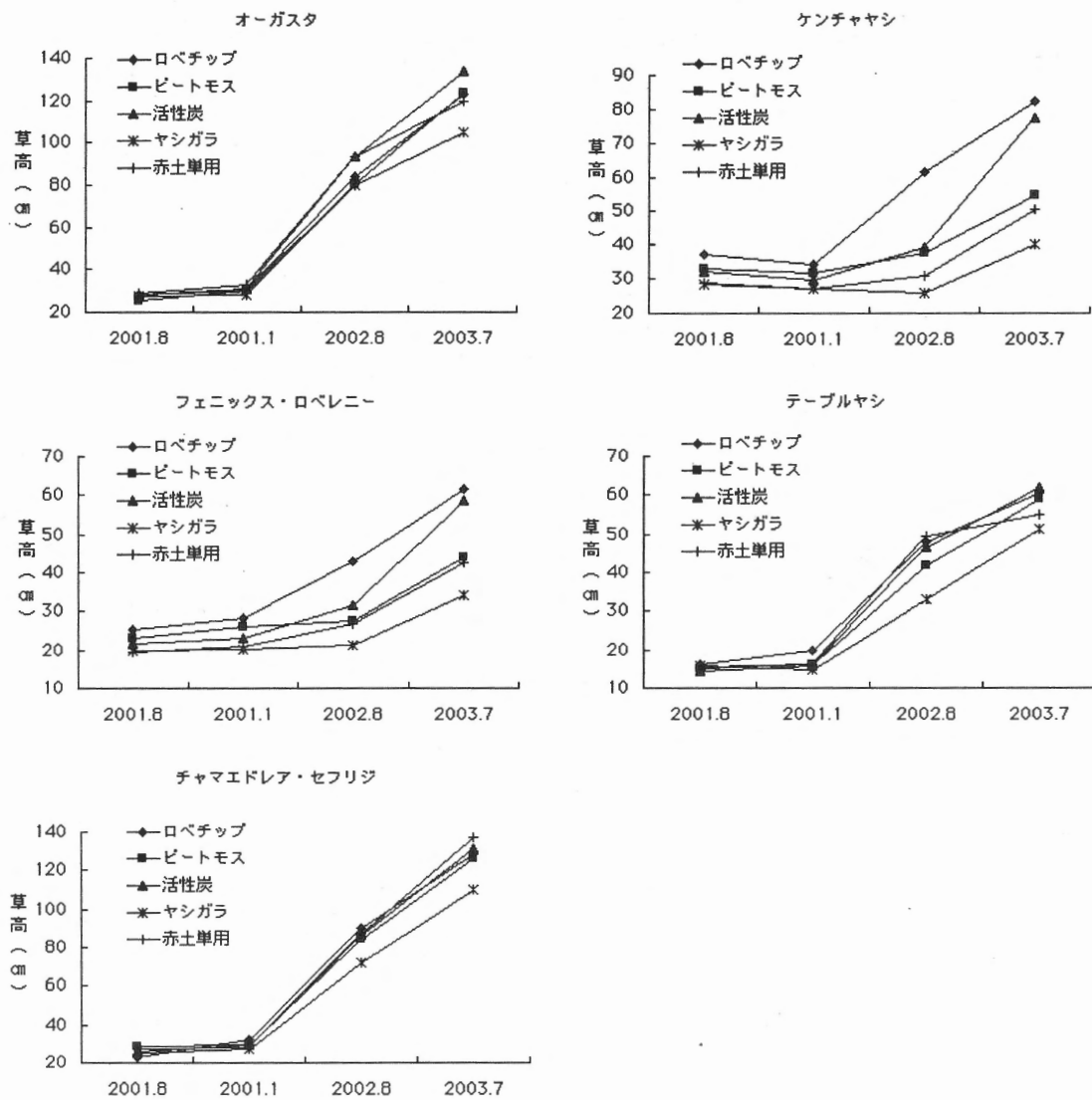


図1 観葉植物における土壌改良資材の効果

表1 肥料の種類と生育 (2002年8月から2003年12月までの)

植物名	試験区	草高		最大葉長		地際茎径		分けつ数	
		03年7月	03年12月	03年7月	03年12月	03年7月	03年12月	03年7月	03年12月
オーガスタ	磷過安42号	153	140	139	124	139	154		
	苦土安1号	205	121	154	122	158	152		
	1B磷過安555	161	134	138	120	151	133		
	配号特6号	186	141	161	128	156	144		
	慣行	242	124	179	130	156	125		
テーブルヤシ	磷過安42号	132	149	161	138	218	137		
	苦土安1号	147	142	169	136	196	131		
	1B磷過安555	129	142	175	127	183	136		
	配号特6号	150	143	191	132	210	121		
	慣行	170	162	215	145	248	119		
チャマエドレア	磷過安42号	134	111	109	110	73	106	100	75
	苦土安1号	173	117	133	103	81	87	175	71
	1B磷過安555	153	119	115	107	82	93	140	71
	配号特6号	154	114	121	106	87	94	154	100
	慣行	187	129	139	117	80	91	200	108

注) 数値の03年7月は鉢上時 (02年8月) を, 03年12月は前回調査 (03年7月) 調査時を100とした指数